

マチ類の漁業管理推進調査

山本隆司

1. 目的

マチ類（ヒメダイ、オオヒメ、アオダイ等）の資源を持続的かつ高度に利用するための漁業管理方を策定することを目的とする。本調査は、5ヶ年を予定している。

2. 材料及び方法

平成8年から10年度まで実施した沿岸漁場総合整備開発基礎調査でサンプリングした鱗、耳石及び生殖腺（ヒメダイ、オオヒメ、アオダイ3種合計で約3,000尾分）の標本処理を行う。鱗はホット油圧プレス機で鱗の鱗紋を塩ビ板に写し取り、万能投影機で鱗紋が読み取れるよう標本を作製した。耳石の処理は標本の作製方法を検討し、次年度以降標本を作製する予定にしている。生殖腺については、ヒメダイとオオヒメについては琉球大学に委託し、アオダイについては定法に従って組織切片を作製した。

漁獲情報収集管理事業で収集した県漁連市場と那覇地区漁協市場のセリデータについて、水試に保管されている一番古いデータから重複と欠落の確認を

行った。

3. 結果

鱗標本については全サンプル塩ビ板に転写した。鱗紋の読み取りは次年度以降に予定している。

アオダイの生殖線組織切片は全サンプルの作製を終了した。次年度以降検鏡し、分析する予定である。琉球大学に委託したヒメダイとオオヒメは、分析が終了し主産卵期は、ヒメダイが5～9月、オオヒメが5～8月で一産卵期に複数回産卵することが明らかとなった。

セリデータの確認作業は、一部データの重複と欠落があった。県漁連市場のデータは、1989年以降からあるが1990年8月4日から15日の間のデータが欠落していた。また、那覇地区漁協市場のデータは、1991年10月以降からあり、1997年10月分が欠落していた。表1に県漁連市場のオオヒメ入荷量、金額等を、表2に那覇地区漁協市場のヒメダイ入荷量、金額等を示した。

表1 県漁連市場のオオヒメ入荷量

年	入荷量(Kg)	高値	安値	平均単価	金額(円)
1989	60,175.7	3,100	50	998	60,042,897
1990	45,704.2	3,000	100	1,155	52,782,610
1991	47,594.2	3,000	100	1,072	51,006,180
1992	42,272.1	3,100	100	1,047	44,279,904
1993	50,503.9	3,000	30	984	49,712,229
1994	42,652.4	2,600	20	1,000	42,669,637
1995	59,443.2	3,500	10	891	52,947,266
1996	50,240.8	2,500	10	968	48,625,854
1997	48,701.6	2,700	100	1,052	51,235,002
1998	51,470.1	3,000	50	1,008	51,859,225
1999	40,974.5	2,500	10	923	37,824,899

表2 那覇地区漁協市場のヒメダイ入荷量

年	入荷量(Kg)	高値	安値	平均単価	金額(円)
1991	8,134.9	2,300	250	1,017	8,275,540
1992	62,555.9	2,420	100	1,007	62,985,872
1993	46,321.9	2,300	50	969	44,875,835
1994	27,939.7	2,510	100	1,023	28,577,553
1995	12,150.6	2,000	100	877	10,652,251
1996	7,480.3	2,000	50	813	6,084,063
1997	7,856.2	2,300	100	952	7,476,625
1998	7,011.3	1,700	200	808	5,661,923
1999	10,613.0	1,850	100	744	7,900,623